

《担当者名》○向谷地生良 (ikuyoshi@hoku-iryo-u.ac.jp) 橋本菊次郎 (hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

さまざまな領域を巻き込みながら学際的な研究や市民活動として広がりつつある当事者研究について、障害福祉学特論、精神保健福祉を中心としたフィールドにおける当事者研究の研究と実践を視野に入れながら、当事者研究、オープンダイアログなどのダイアロジカルなアプローチを実際に展開できるための理論と実際を体験的に学ぶ。

【学修目標】

国内外の当事者研究やオープンダイアログを含めたダイアロジカルなアプローチに関連した先行研究や臨床実践を学ぶことを通じて、当事者研究の実践の理論的な基礎を身に着ける
 さまざまな臨床場面で、ファシリテーターとして当事者研究を自由に展開できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	授業の進め方についての説明と打ち合わせ	講義の全体の構成・狙いについて説明する。障害福祉学演習 同様に、精神保健福祉領域における治療から地域ケアにおける対話実践の原則や実践の動向を概観し、その一部を担う手法について確認する。	向谷地 橋本
3) 6	演劇教育・即興劇と対話実践	「演劇」の中にある対話の構造を演劇教育と即興劇であるプレイバックシアターを通じて体験的に学ぶ。	仙谷桂子（特別講師）第4回、5回 向谷地 橋本
7) 10	表現としての対話実践ー技法としてのグラフィック・レコーディング	対話や議論を可視化する方法としてのグラフィックレコーディングを体験的に学ぶ。	有廣悠乃（特別講師）第8回、第9回 向谷地 橋本
11) 12	当事者研究の実際	当事者研究の実践に触れ、当事者研究の理念、原則、実践知を活かしながら人と場の課題に向き合うソーシャルワークのプロセスに対話実践について考察する。	向谷地 橋本
13) 14	当事者研究の実際	当事者研究にファシリテーターとして参画し、これまで学んだ即興劇、グラフィックレコーディングの活用を試み、実践する。	向谷地 橋本
15	まとめ	全体を振り返り、成果と今後の課題を確認する。	向谷地 橋本

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
 授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業への準備状況（10%）プレゼンテーション（40%）討論および実際（50%）

【教科書】

「描いて場をつくるグラフィック・レコーディング～2人から100人までの対話実践～」 有廣 悠乃 学芸出版社
 「技法以前」 向谷地生良 医学書院

【参考書】

適宜紹介する

【学修の準備】

自らの生活体験からテーマを取り出して「当事者研究」を行う

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

向谷地生良（精神保健福祉士） 橋本菊次郎（精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。